AEFA
フレンド会報15号
発行：2013年3月20日

認定NPO法人　アジア教育友好協会
Asian Education and Friendship Association
本部:〒105-0014　東京都港区芝3-3-10　芝園オーシャンビル8F
TEL　03(6426)0720／FAX　03(6426)0721
Email:asia@nippon-aefa.org

AEFAの3層構造理念

日本への応援、ありがとう！感謝の気持ちを世界へ発信

～　2013年　思いをのせたまごいは海をわたり、アジアの子どもたちの元へ　～

2011年3月11日、今から約2年前、日本では東日本大震災が起こりました。そのニュースはAEFAが学校建設をしている山奥の村にも伝わり、子どもたちや先生、そして村人たちも日本のことを心配し、応援してくれました。
2013年1月、日本の子どもたちからのたくさんの感謝のメッセージが寄せられたこいのぼりが、遥か海を越え、応援してくれたベトナムの子どもたちの元へ届けられました。

◆フートューB小児童による安倍総理ご夫妻表敬訪問

2013年1月16日（水）就任後初の外遊先としてベトナムの首都ハノイを訪問した安倍総理大臣ご夫妻を、フートューB（旧：フートューC）小学校児童10名・教員2名が表敬訪問しました。同校は2011年4月「アジアの子供達に学校を作る議員の会（安倍晋三会長、遠藤利明代表）」のご支援により建設された学校です。開校式の直前に東日本大震災があり、子どもたちは感謝の気持ちを直接伝えられないまま過ごしていました。2年越しの願いが叶い、ようやく感謝の気持ちを直接伝えることができました。

東日本大震災に寄せて日本を思い、応援してくれたアジアの子どもたち（⇒詳細P2）、アジアに感謝の気持ちを届けたいと願う日本の子どもたち（⇒詳細P3）、双方の思いから生まれた“こいのぼり交流”。日本の子ども達からの感謝の思いの詰まったまごいは、表敬訪問の場で、日本を代表して安倍総理大臣の手から直接フートューB小学校の子ども達に手渡されました。

（上）総理ご夫妻と笑顔で記念撮影

（左）ご夫妻から子どもたちへのメッセージ「夢」

◆こいのぼりは、応援してくれた子どもたちの元へ

表敬訪問で受け取ったまごいを大切に持ち、代表児童は母校のフートューB小学校へ帰りました。そして全校に表敬訪問の様子や、日本の子ども達の現在の様子を報告しました。
2年の時を経て、日本の子どもたちからの感謝のメッセージが、応援してくれたベトナムの子ども達の元に届きました。

（上）日本から届けられたこいのぼりと共に。
（右）メッセージを読む子どもたち。震災時の募金活動では、お小遣いを寄付したり、手紙を書いたりと、児童全員がかかわりました。

「まごいに書かれたたくさんのメッセージを読んで、日本の子ども達が前を向いて生活していることがわかりました。嬉しい気持ちでいっぱいです。この学校の子ども達の日々の暮らしも大変ですが、お互いに未来に向かって頑張りましょう。」と、バネ先生。これからも日本の子ども達との交流を楽しみにしています。

ひとこと　**子どもたちが人間力をつけるための一石を積み上げたい**

AEFA活動の目的は、①アジア少数民族の子どもたちへの教育環境の整備 ②交流を通し、日本の子どもたちの情操教育･徳育推進 の二本の柱と言うことが出来よう。その中でも、特に②の日本の子どもたちへの働きかけ＝人間力をつけるための教育への一石の積み上げを目指したいと思っている。知識としての徳育ではなく、ジーンと心に沁みるような・・。教育実践のツールを提供することで、徳育のお手伝いができればと考える。幸いにも、これまで交流事業を推進してきた学校は延べ100校以上にもなる。交流教育実践の中で生まれた良い結果を伝えながら、本年度は更に中身を深めて交流事業を推進する決意である。

（理事長　谷川　洋）

2011年　アジアの国々から日本へ
海を越えてこの祈りが届きますように　～赤いひごいに思いをのせて～

2011年4月、私達は、日本の子どもたちを助けるために募金しようとみんなに呼び掛けました。多くの子どもたちがお小遣いの中から募金しました。
何人かの小学1年生は500ベトナムドン（日本円で約2円）を募金しました。みんな日本の人たちのために募金をすることができて幸せに思いました。私達はこの金額がそれほど多くないことを知っています。でも私達の思いが日本のみなさん、そして子どもたちに届くことを祈っています。

ベトナム・フートューB小学校
レー・ティー・ブー・ティエン

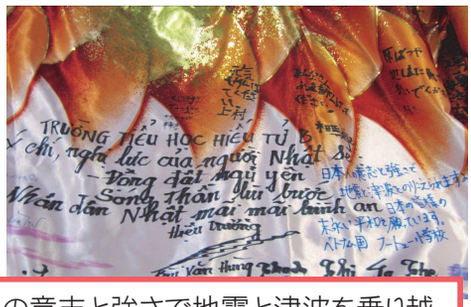
募金箱の中には子どもたちの思いのつまった49万2500ドン（約2000円）

ティエンさん（右から2人目）

ベトナム・フーカンB小

「日本が早く復興しますように。私達はいつもみなさんのそばにいます」

ラオス・カニョンケクナイ小



「日本人の意志と強さで地震と津波を乗り越えられますように。皆様の平和をお祈りします」

ベトナム・タンホアA小

福島県教育長（右）に
募金箱とこいのぼりを贈呈

2011年5月
こいのぼり＆募金は
福島県へと…

「応援していただいたことを心に刻み、これからもどんな事にも負けないで力いっぱい頑張っていきます」

飯舘村　3つの小学校の子どもたち

2012年　日本からアジアの国々へ
「応援ありがとう。僕たちは頑張ります」～黒いまごいに思いをのせて～

2011年、2012年とこいのぼりは福島を旅し、アジアの子どもたちからのメッセージを届けました。
「お礼の気持ちを、そして私たちは元気にしているということを、応援してくれた皆さんに伝えたい!」
たくさんの子どもたちが、まごいに感謝の気持ちを寄せ書き。未来に向かって、自分達の夢も語ってくれました。

「私達は原ぱつでひなんしているけど、みなさんのメッセージのおかげでがんばれるきがします。これからもおうえんお願いします」

「私の夢」
私の夢は消防隊員になって災害を受けた人々に幸せを配ってあげることです。どこかの国とかで地震、津波、火災などで被害を受けた人々に少しでも幸せになってくれるように、火に水をかけてあげたり、地震ではがれきの中から人を救ったり津波でも人を救って、火事では一刻も早く助けたいと思います。
　　福島県いわき市立小川小学校6年Uさん

「わたしは家で料理していて楽しいので料理をこれからもいっぱいして、新しくおいしい料理を作ることがわたしの夢です。そしてみなさんにごちそうしたいです」

「大工になって家などがない人に家を建てて、その人を喜ばせてあげたいです」「放射線をなくす科学者になりたいです」「ぼくの夢は、世界を元気にすること」「福島駅伝に出られるようにがんばります」

「地域のことや世界のことを勉強して世界の人の役にたてるような仕事をしたい」

「みなさんの思いが僕たちにとって大きな力になりました。ありがとう!これからもがんばりたいです。」

「みなさんが笑顔で毎日楽しくいられることを願っています」

そして、日本の子ども達の思いをのせたまごいはベトナムへと…（⇒詳細P１）

2012年　学校建設一覧

	小学校名	（分校名）	国名	民族	児童数	教室・設備	支援者（敬称略）
1	ダックロオン	本校	ベトナム	セダン族	271	5教室＋WC＋井戸	日本財団
2	ダクハ	ダクハ	ベトナム	セダン族	54	3教室＋WC＋井戸	日本財団
3	キムドン	ダックリゾップ	ベトナム	ロンガオ族	159	3教室＋WC＋井戸	日本財団
4	ダックチャム	ダックドリン	ベトナム	セダン族	88	3教室＋WC＋井戸	日本財団
5	キムドン	クラウ ゴル ゴー	ベトナム	ジャライ族	250	5教室＋WC＋井戸	日本財団
6	ドアン ティ ディエム	ヤンロオン	ベトナム	バナ族	153	3教室＋WC＋井戸	日本財団
7	ゴックトゥ	ダックトン	ベトナム	セダン族	103	2教室＋WC＋井戸	剱持　昭司・榮子（日本財団「夢の貯金箱」）
8	ルホンフォン	ダックルン	ベトナム	セダン族	104	3教室＋WC＋井戸	アースバンク倶楽部
9	ホアタン	第5	ベトナム	キン族	75	3教室＋WC＋井戸	日本財団
10	ホアンホアタム	タムミー西	ベトナム	キン族	68	3教室＋WC＋井戸	日本財団
11	ポコ（中学校）		ベトナム	ロンガオ族	300	5教室	日本財団
12	レバンタム	第2	ベトナム	キン族	108	5教室＋WC＋井戸	日本財団
13	カダイタビン（中学校）		ベトナム	カトゥー族	500	寮8室×2棟	日本財団
14	ルオンテーヴィン		ベトナム	キン族	639	4.5教室＋WC＋井戸	坂東眞理子
15	チェウ ティ チン	タンアン	ベトナム	キン族	398	4教室＋WC＋井戸	（株）サンキューホールディングス
16	ホアバック	ジアンビ	ベトナム	カトゥー族	47	教師室兼集会室	（株）サンキューホールディングス
17	ラパンタン	チョン パア サン	ベトナム	モン族	486	3教室＋WC＋井戸	日本財団
18	チエンマイ	コーサウ	ベトナム	タイー族	60	3教室＋WC＋井戸	日本財団
19	チエンケオ	ブオット	ベトナム	タイー族	50	3.5教室＋WC＋井戸	日本財団
20	バンプアイ（中学校）		ラオス	スワイ族	342	6教室+教員室+WC＋井戸	ダイリキ株式会社
21	マークナオ（中学校）		ラオス	イン族	215	6教室+教員室+WC＋井戸	棚橋賢治
22	パチュドン（幼稚園）		ラオス	タオイ族	50	2室＋WC	セカンド・オピニオン株式会社
23	ビエンカム		ラオス	スワイ族・タオイ族	137	5教室＋教員室+WC＋井戸	神崎敏彦・大阪コミュニティ財団
24	ラック33		ラオス	アラック族・低地ラオ族	55	4教室+教員室+WC＋井戸	肥後良輔
25	フアパコー		ラオス	低地ラオ族	96	2教室＋教員室+WC＋井戸・水タンク	AWS/国際学校建設支援協会
26	フォーサイ		ラオス	低地ラオ族	187	校舎補修	若者団体Share/国際学校建設支援協会
27	ファイコン		タイ	カレン族	約400	女子寮	匿名個人

ダックロオン・本校
（日本財団）

ダクハ・ダクハ分校
（日本財団）

キムドン・ダックリゾップ分校
（日本財団）

ダックチャム・ダックドリン分校
（日本財団）

キムドン・クラウゴルゴー分校
（日本財団）

ドアンティディエム・ヤンロオン分校
（日本財団）

ゴックトゥ・ダックトン分校
（剱持昭司・榮子＜日本財団「夢の貯金箱」＞）

ルホンフォン・ダックルン分校
（アースバンク倶楽部）

ホアタン・第5分校
（日本財団）

2012年　ベトナムにおける学校建設

ベトナムでは、少数民族が多く住んでいる中部高原地帯（特にコントゥム省、クアンナム省）を中心に学校建設を行っています。本校ー分校のクラスター制度（本校を中心として周辺の村に分校を配置）により、地域全体の教育環境の充実を狙った建設が特徴です。また、建設した学校と日本の学校との交流も盛んに行われており、ベトナムの子ども達もまだ見ぬ遠い日本のお友だちを思いながらお手紙や絵を描いたりと、日本に対する興味も少しずつ湧いてきました。村から出る機会があまりない子どもたちにとっては、年に1-2回届く日本の子どもたちからの交流作品が、異国の風を運んできてくれる存在です。

コントゥム省のポコ地域では2009年に3校の分校を建設。ポコ小学校は子ども達の数も増加し、非常に良い学校に成長してきました。初等教育の充実に伴いポコ地域では中等教育へと進学を望む子ども達が増えたため、2012年はポコ中学校を建設しました。「学びたい」との想いで親元を離れ、多くの生徒達が敷地内の寮に住み込んで学んでいます。

クアンナム省のカダイタビン中学校では、2011年に校舎を建設。2012年は継続して、男子寮・女子寮の整備を行い、現在250名が寮生活をしています。以前は登校するだけで疲れてしまったという学生達も、今では月曜から金曜までを寮で過ごすことができ、勉強に集中できる環境が整いました。

グエンフーカイン小
3年生 イ・アンさん
（ジャライ族）

「日本のみなさん、こんにちは。私は6人家族で、4人兄弟の末っ子です。好きなことは絵を描くこと。将来何になるのかはまだ悩み中です。私が2年生の時に新しい学校ができたのよ！毎日楽しく学校に通っています！

ホアンホアタム・タムミー西分校
（日本財団）

ポコ中学校
（日本財団）

レバンタム・第2分校
（日本財団）

カダイタビン中学校寮
（日本財団）

ルオンテーヴィン小学校
（坂東眞理子）

チェウティチン・タンアン分校
（㈱サンキューホールディングス）

ホアバック・ジアンビ分校
（㈱サンキューホールディングス）

ラパンタン・チョンパアサン分校
（日本財団）

チエンマイ・コーサウ分校
（日本財団）

チエンケオ・ブオット分校
（日本財団）

2012年　ラオスにおける学校建設

2012年建設校は、合計7校。（小学校4・中学校2・幼稚園1）これまで主にプロジェクトを行っていたサラワン県及びビエンチャン県のほか、南部チャンパサック県にも入り、建設致しました。

チャンパサック県はチャンパサック王国が栄えた、歴史ある地域。学校活動への先生方と村人の協力関係は強く、子どもたちも活発です。2月28日に開催したラック33小開校式①では、ご支援者様より**「この校舎で思い切り勉強して、考えて欲しい。そして他の世界のことを知り、次はみなさんが誰かを支えてください。」**とのお話と、地球儀が贈呈されました。フアパコー小②も、涼しげな色合いの美しい校舎が完成。3月2日、多くのご支援者の皆様を迎えて開校式を開催しました。

サラワン県では、2005年度から継続しているパチュドン校に幼稚園③を開設しました。山岳少数民族の子どもが1日でも早く国の公用語であるラオス語に触れ、ラオス語がわからないために授業についてゆけず、落第したり学校に行けなくなってしまう問題を防ぎ、初等教育の修了率向上を目指します。2012年11月には、ご支援者様親子も参加されて開園式を行い、凧揚げや縄跳びなど、子ども同士の交流を楽しみました。

マークナオ中④は、ポンタン小（2009年建設校）からの卒業生が多く通うことから、日本との交流も活発。生徒代表から詩が贈られました。

サラワンの南部　ゾウがいるところ
村の名前はマークナオ（レモン）、甘くありません
大きなプロジェクト　教育部門の開発についての
学校建設はその核心　教育活動に使用する場所
学校は私たちの心の中心　学生たちの能力を育てる場
若きパイオニアたちが能力を伸ばし　賢い人に育つように

ビエンカム⑤では、学校建設を通して村人が一致団結。学校を囲む垣根のほか、他の村から住み込みで勤務する先生方のために、先生の家を村人が手作りで建設をはじめました。村人たちの協力と熱意、活発な動きが実を結び、2013年度には中学校の支援も決定しています（イートアンド株式会社様）。小学校旧校舎ですでに中学生たちが勉強を開始。この地域の中心基幹校になります。

バンプアイ中⑥は、これまで間借りしていた小学校から、新たに用意された土地に新校舎を建設。同地域における中等教育の中核地として、2013年新年度より400名近い生徒が学ぶ場となります。

ビエンチャン県フォーサイ小⑦は、校舎補修によりまるで新設校のようにきれいにまた安全な校舎に生まれ変わりました。同校を支援している日本の大学生たちの“ずっと見守り、応援したい”という思いから、遊具（タイヤ飛びなど）を手作り、贈呈しました。

ビエンチャン　フォーサイ小学校　⑦
（若者団体share/ISSC様）

ﾁｬﾝﾊﾟｻｯｸ　ラック33小学校　①
（肥後良輔様）

ﾁｬﾝﾊﾟｻｯｸ　フアパコー小学校　②
（AWS/ISSC様、井戸・水タンク
郡山南ロータリークラブ様）

サラワン　パチュドン幼稚園　③
（セカンド・オピニオン株式会社様）

サラワン　マークナオ中学校　④
（棚橋賢治様）

サラワン　ビエンカム小学校　⑤
（神﨑敏彦様、大阪コミュニティ財団様）

サラワン　バンプアイ中学校　⑥
（ダイリキ株式会社様）

ラオス　サラワン教員養成短大で学ぶ生徒たち
～山岳地帯サラワン県タオイ郡出身～

AEFAは、3年前より山岳少数民族の生徒が自分の村の学校の先生となるためにサラワン教員養成短大で学ぶ奨学金を支援しています。これまでにタオイ郡内の3つの基幹校に中学校を新設。（パチュドン・ブオンナム・トゥムリーフン）しかし、中学卒業後は村で農業をするか、出稼ぎ労働をするしかない生徒も多い状況でした。一方で、山岳少数民族の言葉・文化・伝統・習慣を十分に理解している先生でないと、子どもたちへの指導、コミュニケーションはもちろんのこと、村人との関係が築けない現状も。

そこで、少数民族の村出身の先生を育てる奨学金制度を立ち上げました。2010年9月の新年度から合計16名の生徒が学んでいます。いよいよ来年度（2013年9月）より、初の**“おらが村の先生”**3名（クユム君・ダム君・ケオペット君）が誕生します！第3期生6名の中には、パチュドン中を卒業した初の女子学生（カーッさん）も。村の女の子たちの希望の星です。山岳地帯の村から出てきて、慣れない街での生活。村では調理のための薪も森で拾うことができましたが、街では購入しなくてはいけません。奨学生たちは夏休みにはバイトをしたり、お互いに助け合いながら生活しています。自分たちの住むところも、現地NGOスタッフの助けを借り、あまった木材を再活用して手作りを始めました。

短大での生活環境を改善するために、同校にキッチン新設及び鍋や皿なども支援します。これからも生徒たちを見守っていきます。

日本から訪問した、ご支援者様と一緒に！

上）養成短大校舎　下）キッチンで調理する生徒

奨学生からのメッセージ

「支援してくださるみなさまのおかげで、今、ぼくはここ（サラワン教員養成短大）にいて、勉強することができるのです。」

「小学校のころから先生になりたいと夢見ていました。今、その夢が叶うと思うと、本当にうれしい気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。」

「学校では知識やスキルだけでなく、先生や友人たち周囲の人々からも多くのことを学んでいます。もし村にいるままであったなら、知ることができなかったことが沢山あります。」

「僕達がみなさんにプレゼントできる物は何もありませんが、これからも勉強を一生懸命頑張るということをお約束したいと思います。心からのありがとう、という感謝の気持ちをお伝えしたいです。」

ちくぬいプロジェクト　～奨学生を見守り、支える人々～

村の女性の手織り布

ちくぬいボランティアさんの手で、素敵な小物に生まれ変わります！

奨学生たちを支えてくださっているのが、ご支援者のみなさま、そしてラオス手織り布の小物作品を手作りして、応援くださっている「ちくぬいボランティア」のみなさまです。売上を、タオイの村の生徒が自分の村の学校の先生になるべく教員養成短大で学ぶための奨学金としてご支援くださっています。

1枚1枚、色合いもデザインも異なる手織り布と、世界でたった1つの手作りオリジナル作品。まさに女性たちの思いが紡がれた、プロジェクトです。

キッコーマン株式会社様のご協力で、18名の社内ボランティアさんが活動。同社の「もの知りしょうゆ館」（野田市）にて、作品の常設展示と販売を行っています。

◆興味のある方は、AEFA事務局までお問い合わせください◆

「いわきから　日本へ・世界へ・未来へ」いわき生徒会長サミット
タイ　ワンコイン・スクールプロジェクト

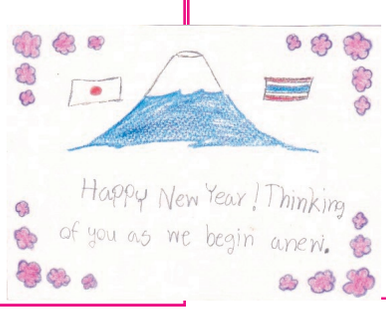
福島県いわき市「いわき生徒会長サミット＆AEFAワンコイン・スクールプロジェクト」。初年度はのべ35校より1,579,605円が寄せられました。（2013年2月12日現在）

「ワンコイン・スクールプロジェクトを実践して感じたことは、国際支援や人道支援は案外手軽にできるのだな、ということです。海外への支援や協力というと、フォスター・プログラムや国境なき医師団など、いろいろな援助の方法が思い浮かびます。私はこれまで、特に専門知識があるわけでも裕福なわけでもない普通の人が、普通に生活しているなかで、そのような支援活動に携わる機会はほとんどないことなのではないかと思っていました。しかし今回、全校生徒、保護者さん、教職員が協力してこのプロジェクトのために努力を重ねて自分を高め、また募金をすることができました。また、この活動を通して、世界の現状を垣間見、同時にいま日本で暮らしている自分は恵まれているのだということを知ることができました。」（錦中　遠藤圭介先生）

「平三中としての取り組みは、“頑張りたいこと”が達成できたら、その程度に応じて、設定した金額を寄付する、というものです。“部活動でヒットを打つ”とか“忘れ物をしない”など、全校生徒がそれぞれに“頑張ること”をカードに記入しました。この仕組みを作るのに、先生と生徒会とで何度も話し合い、工夫しました。何より生徒会長の、やりたいんだ！っていう熱意が伝わり、やっぱり、熱意が人を動かすんですね。生徒の気持ちに協力したいと思いました。子どもたちもやりがいを感じています。　」（平第三中　渡辺順子先生）

＜生徒達の感想より＞
- 1つのことをみんなでやると思うと、校内の取り組みのみならず、いわきへ、世界へ広がっていると思うとうれしい。
- 自分の立てた目標を達成できる・できないはあったけれど、小さなことの積み重ねが大事だと思った
- 達成して寄付をしたら、気持ちよかった。
- 小さな取組でも、だれかの役に立つ、助かる人がいると思うと、少しの力でもがんばろうと思った
- （お金は寄付できなかったけど）生徒会の取り組みは素晴らしいと思った

新校舎
建設用地



安倍昭恵総理夫人が　いわき生徒会長サミットを応援！

2013年2月5日、いわき市を安倍昭恵総理夫人が訪問。これは中学生たちの取組を聞いた昭恵夫人がぜひ、直接お話を聞きたい・・とのことで実現したものです。平第三中学校で草野中・錦中の生徒会長・副会長らも交え、懇談しました。

「個人的にも、支援してもらってばっかりじゃ申し訳ないと思っていました。そこに、このタイを応援するワンコイン・スクールプロジェクトと出会い、自分の考えとあうし、ぜひやりたいと思いました。お金もからむし、難しいこともたくさんあったけれど、学校のみんなが協力してくれてうれしかったです」「不安もあったんですけど、やってよかった。みんなも実感しているので、これからもこの活動は、活発にやっていきます」「やっぱり大変な人もいるので、お金は協力できないけど、、って言われて、悲しかった。そういう人には周りで協力したいと思いました」「将来は、いわきの街の復興を自分でやりたい。」

メンバーたちは緊張しながらも、自分の言葉でしっかりと活動報告及び今後の目標を発言、生徒会長サミットのバッジを夫人に贈呈。夫人からは、「これからもアジアの一員として、周りに思いをはせて下さい」と、激励の言葉を頂きました。

ファイコン中学校からのグリーティングカード

今年は、いよいよ“交流”も始まります。
中学生同士なので、英語でやりとりができるかも・・？

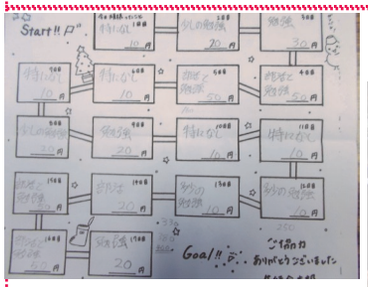
交流が始まります

いわき生徒会長サミット　各校の取り組みと頑張り！
それぞれ試行錯誤と工夫を凝らし、各学校ならではの活動に取り組みました。

玉川中学校
12月までに5回以上、アルミ缶の回収活動を行い、昨年度を上回る量が集まりました。地域の方も、その様子を見て協力してくださったそうです。夏から冬まで、年間を通して頑張って活動した様子が伝わってきます。

植田東中学校
「1、2学期に各1回ずつ、頑張り運動を展開。その他年間を通してやれることとして、アルミ缶回収を行いました。文化祭・体育祭でも、保護者・地域の方にも呼び掛け、募金活動。どうせやるなら、どうしたら達成できるか、やれる理由を考え、生徒達も頑張りました。やりきったこと、達成できたことで自信につながり、プラスの面が大きかったと考えます。」（佐藤校長先生談）

藤間中学校
「募金活動を行ったほか、CDなどのリサイクル活動も。生徒会を中心に活動を行い、期間中は校内放送で全校に呼び掛けました。」(小川先生談)



好間中学校
「夏休み、冬休みとカード運動を行いました。自分のお年玉から協力した生徒も。（いわきに避難中の大熊町の生徒は、自分よりも困っている子に、と5000円を協力。）2年生は独自の活動として、「総合の学習」でアルミ缶活動も行いました。 カード運動で、子どもたちも”やりとげる感じ”が持てました。風呂掃除にしろ何にしろ、毎日やることが自信につながるということが、やってみて初めてわかりました。何よりも生徒達の熱い思いに、わたしも教員達も押し切られましたが、やってよかったと思います。」（志尾崎先生談）

活動を通して、草野中では詩が生まれました。（楢葉から避難中の生徒の作品）

「育てよう一本の木」
わたしたちは　地球で生まれる　おなじ人間
人間は　枝分かれして　たくさんの人がいる
わたしたちは　人から生まれる　　若葉
若葉は　　未来への希望
わたしたちは　たくさんの明日へ　生きる
わたしたちは　同じ人間として　つながる
人は　　おなじ世界を　　みる
わたしたちは おなじ いっぽんの木を 育てる

植田中学校
エコキャップ収集等の活動で。
活動にいそしむ生徒達

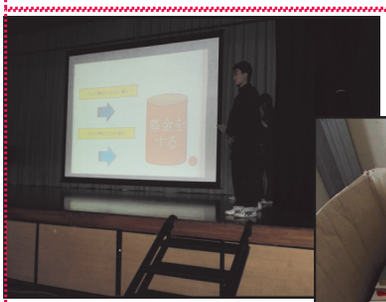
三和中学校
アルミ缶収集の活動を主に行いました。

いわき生徒会長サミット　各校の取り組みと頑張り！
実際に取り組んだ生徒や生徒会顧問の先生、校長先生からの声も届いています。

上）地域の敬老会にて
右）オリーブプロジェクト
ボランティア活動が盛んな学校です

湯本第二中学校

「生徒会長は、自分たちでワンコインも何とかやりとげたいけど、寄金が集まらないのが心配、と悩んでいました。PTA会長が「それなら出世払いで、全校生分を立て替える」と申し出てくださった。その代り、お手伝い等ずっと続けてやること、一過性でなく、やっていくことに意義がある等、お話もしてくださいました。その後、カード運動でも新たに活動を始め、3年生は、1-2年生のクラスを廻り、今やっていること・伝えておきたいことを話しています。私に、一緒に授業をやってください、どうしても後輩たちに伝えたいことがあるんですと、涙ながらに訴えてきます。一生懸命です。本校は、目標に達するまでこの活動を代々、続けていきます。この寄金には、PTA・生徒・教員皆の思いが込められています。」（澤井校長先生談）

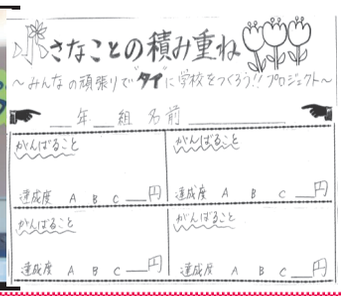


パワーポイントと寸劇で、
活動を全校生徒に紹介

磐崎中学校

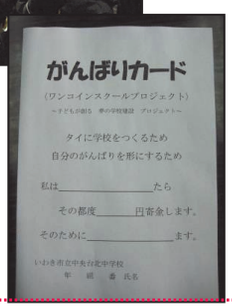
「生徒会が全校にカード運動を紹介。賛同する子が多く、お年玉等からも協力していました。協力してくれる子が多くびっくりしました。引き続き古本回収も行っています。」（小宅先生談）

「一人ではできないようなことも、みんなで力を合わせればできるようになる。これからも、様々な活動をしたい。」「活動をする中で、タイの子どもの気持ちが分かりました。」「最初は心配だったけれど、積極的に取り組んでくれる人が多くてうれしかった。」（生徒会役員からの声）



平第三中学校

カード運動では、「ワンコイン」ということはあえてせず、目標達成度A・B・Cという形で、生徒がその達成度に応じてお金を出す仕組み。この仕組みを作るのに、先生と生徒会とで何度も話し合い、取り組みやすいように工夫を重ねました。頑張りの証であるカードは、実践した感想も書き入れられて、校内に掲示されています。



自分が頑張っていることを発表

中央台北中学校

「全校集会や北中フェスティバルでの発表のために、本部役員が協力し、工夫を凝らすことで、全校生にプロジェクトをわかりやすく伝えることができたと思います。全校生もそれに応えてくれて、よい結果を出すことができました。今回のプロジェクトを通して、みんなで一つのことに取り組むことの大変さと、一つになったと実感したときの達成感を感じることができました。このような機会を与えていただきありがとうございました。」（生徒会長の感想）

「生徒は普段から何事にも一生懸命取り組んでいますが、今回のワンコインスクールプロジェクトに関わることで、何気ない努力と目標達成がより価値のあるものに感じることができました。これからも努力を惜しまず、自分の取り組みに自信をもてる中央台北中生であってほしいと思います。また復興元年である今年度に、タイの学校創立にいわき市の中学校として支援できたことによって、これまで支援される側であった感謝の気持ちを伝えることができ、生徒は「復興」という言葉をより尊く感じられたようです。」（星先生の感想）

豊間中は「被災後、生活が安定してきて、これまでに頂いた支援の恩返しをしようと、文化祭で生徒会バザー（木に生徒がイラストを描き、マグネットを貼りつけた作品等）を販売。個数を作らなくてはいけないので、各学年に割り振り、役割分担して頑張った。」（伊藤先生談）貝泊中は、毎朝行っている校内清掃ボランティア活動で。湯本第一中は「募金活動で。自分たちが被災したことへの恩返し・ご縁を次につなげる・・親切のリレーになっていると感じた。」（藤田先生談）

・・・このほか、今回お伝えしきれなかった活動は、次号にお知らせいたします！！

◆◇　2012　AEFAフォーラム　◇◆

各地域で、交流活動を推進している先生方、教育関係者の方々に集まって頂き、2012年12月25日（火）日本財団ビルにてAEFA教育フォーラムが開催されました。

各学校・地域での事例が発表され、ディスカッションを通じて、お互いの活動や今後への想いを共有しました。

いかに保護者と協力してやっていくか、苦労していること、生徒たちが自発的に活動していった様子など、学校現場での熱い取組みが話し合われました。また志を同じくする先生たちの交流も広がりました。

以下発表者

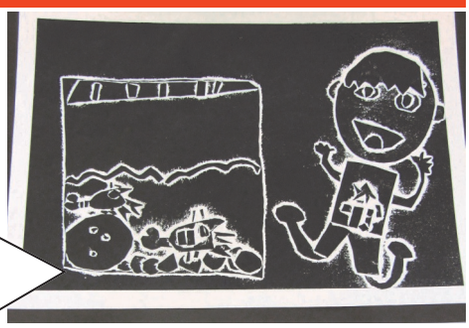
榊　尚信（武蔵村山市立第十小学校 校長）、牧　一彦（武蔵村山市立第八小学校 校長）、鶴田　浩二（武蔵村山市立第一小学校　校長）、川村　雅茂（いわき市教育委員会　指導主事）、坪川　淳一（坂井市丸岡南中学校　校長）、青木　信益（坂井市立平章小学校 校長）、木村　麦（ドルトンスクール東京　ソーシャルスタディ担当教諭）、浅川　恵子（津市立高野尾小学校 教諭）

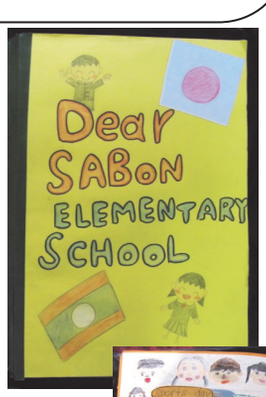
＊私たちAEFAが、目指していること＊
他人の痛みを自らの痛みとして感じ、彼らの痛みを和らげ、消し去るため、自分自身には何が出来るかを考え、自ら、そして、仲間と共に行動を起こす子どもを育てていくこと。

◆◇　日本からの交流作品紹介　◇◆

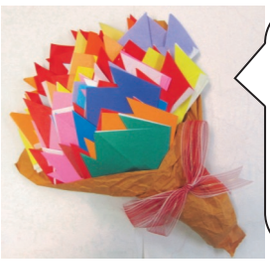
東京都青柳小学校
→　マックディンティ小学校
どうにかメッセージを伝えたいとの思いから子どもたちが紙に書いて伝えることを発案！
「ベトナムのお友だちへ。
プレゼントありがとう。大切にします！」

福井県成器西小学校
→　ダクハ小学校
朝起きたらザリガニが2匹になっていてビックリ！
実は、脱皮していて2匹にみえたそうです。驚いた顔が上手に表現できていますね！
ダクハ小の辺りにはザリガニはいるのかな！？





岡山県柏島小学校
→　サボン小学校
小学校の様子、日本の自然や文化などを紹介する大きな絵本をつくってくれました！写真がついているのでとてもわかりやすく、楽しい学校生活の様子が伝わってきます！



東京都
立会小学校
→コッマイ小学校
折り紙でできた素敵なチューリップの花束が届きました。

◆◇交流の現場から◇◆
ルホンフォン小学校コンダオ分校

福井県・三国北小学校と2008年から交流を続けています。今年度は三国北小のお友だちから海の中の様子が描かれた絵巻物が届きました。コンダオ分校は山の中にあるため、実際に海を見たことがない子どもがほとんどです。

「（くらげを見て）こんなに足がたくさんあるもの見たことないよ」「たくさんお魚がいて日本の海はきれいだね!」と子どもたち。まだ見ぬ海、そして友だちの住む日本に想いを馳せていました。

◆ AEFA往来　2012.11～2013.3 ◆

11月 ●いわき生徒会長サミット全体ミーティング中間報告（10日）
●東京都・武蔵村山市立第一小学校にて理事長講演（保護者対象）（23日）
●パチュドン幼稚園開園式（25日）

12月 ●理事会（11日）
●倉敷市・奥出雲交流校にて出前授業（11-14日）
●在ベトナム日本国大使館にて草の根・人間保障無償資金協力「コントゥム省ダックロガ中学校学生寮建設」署名式（17日）
●AEFAフォーラム（25日）

1月 ●ベトナム・フートューB小学校児童による安倍総理ご夫妻表敬訪問（16日）
●日本財団笹川会長、大野常務、AEFA理事長谷川駐ベトナム日本国大使館谷崎大使訪問、昼食（28日）

2月 ●ラック33小学校開校式（28日）

3月 ●フアパコー小学校開校式（2日）
●港区教育長訪問（5日）
●理事会（7日）
●会報15号発行（20日）
●社員総会、会員の集い（20日）

2012年ラオス建設校開校式が開催されました
2013年2月28日～3月6日

チャンパサック県の建設校で、ご支援下さった皆様のご参加を賜り、開校式を開催しました。

2013年2月28日ラック33小学校では、村人から「わたしたちはご支援くださった肥後さんの心を忘れません。学校を、村の誇りとします」との挨拶がありました。低学年だけの分校でしたが、新年度からは全学年の児童が学べるようになります。

3月2日フアパコー小学校では、ご支援者のAWS様、郡山南ロータリークラブ様ほか、学生団体の皆さんも参加。サッカーや綱引き、リレー、大縄跳びなどの交流を子どもたちと夢中で楽しみました。

今後も、運動会の開催等、継続して学校を支援してくださいます。

【ラック33小】 子どもたちに囲まれる肥後良孝さま

左）【フアパコー小】
下）郡山南ロータリークラブ様寄贈の水タンク

【フアパコー小】
熱狂の綱引き！

ちょっといい話 ・・ ラオス

2010年建設校ラオガム小（中西様他ご支援）では、村人が追加校舎を手作りしています。旧校舎を撤去した際に出た木材を再利用し、釘・屋根材などを買うためのお金を出し合いました。新校舎が整備された後、ますます増える児童に対応して不足教室を補うべく、手作り校舎を建設しています。中西様からは、引き続いてパソコンとプリンタ他のご支援もいただきました。

【フォーサイ小】3月4～6日にわたり、学生のみなさんがタイヤ飛びやドラム缶くぐりの遊具を手作り、学校に贈呈しました。

2013年は日越友好年（日本ベトナム外交関係樹立40周年）！

AEFAでは・・・南部ドンナイ省ビエンホア市でグエンチータイン小学校の校舎増設を予定しています。ビエンホア市には日本や海外からの企業が進出しており、工場で働く労働者の子どもの数が急速に増加しています。そのため、学校では午前・午後・夕方の3部制で授業を行っている状況です。子どもたちの学習環境を整えるために、第一歩を踏み出す予定です。

テレビや新聞などのメディアでも、ベトナムが取り上げられる機会が増えています。ご注目下さい！

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

認定ＮＰＯ法人　アジア教育友好協会　AEFA（アエファ）　Asian Education and Friendship Association
〒105-0014　東京都港区芝3-3-10　芝園オーシャンビル8Ｆ
TEL 03-6426-0720　FAX 03-6426-0721　Email: asia@nippon-aefa.org　URL:http://www.nippon-aefa.org